



「西郷 玄関口のまちづくり構想」

世代をつなぎ 海とまちをつなぐ
～にぎわいと防災の実現～

まちづくり構想とは

西郷港周辺は隠岐の島町の玄関口として古くから栄えてきました。しかし、人口が減少し、車社会となってからは昔の面影は薄れています。そこで、西郷港周辺にかつてのにぎわいを取り戻そうと、「西郷 玄関口のまちづくり構想」を策定することとしました。

みちや施設を整備してもそこに集う人がいなくてはにぎわいは生まれません。次世代の人々が今からまちづくりに積極的に関わることでまちへの愛が芽生え、将来、町の内外で熱いサポートをしてくれることを期待し、小中高生の参加による構想づくりとその実践を行っています。多世代がまちづくりに参加することで世代間のつながりも強化します。

また、西郷港へ入港する船からも見える台地には小学校もありますが、台地を背にした構造となっているため、他のまちや小学校との連携がとりにくい状況となっています。そこで台地をランドマーク（地域の目印）として、地域間のつながりを深めていきます。

このように、まちづくり構想では、「つなぐ」をキーワードとし、人づくりでは代間をつなぎ、まちの構造では海からターミナルエリアとまちをつなぐ方向性とししました。

構想の対象範囲

西郷港周辺のまちの空間構造をみると、ターミナルを中心とした「ターミナルエリア」から、東側に流れる宇屋川沿いの東町・中町、西側に流れる八尾川沿いの西町・港町、それぞれのまちの背後に広がる「台地」といった構造となります。

ターミナルエリアから続くみちは、まちのにぎわいを創出する周遊するみちとして、また緊急時には台地まで上る避難路としての役割を担うことから、ターミナルから続くみち、川、台地を含む範囲を「西郷 玄関口のまちづくり」の対象範囲とします。

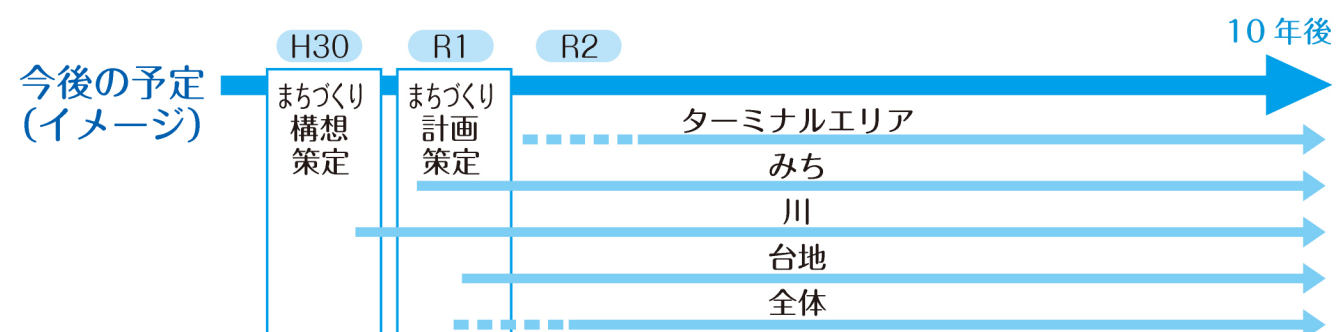
まちづくり構想の対象範囲では、まちのにぎわい、住環境整備、防災を重点的に考える範囲として位置づけます。

まちづくり談義

隠岐の島町「西郷 玄関口のまちづくり」について、時にはまち歩きをして話し合いを行う「まちづくり談義」を行っています。談義は誰でも参加でき、他の参加者と意見を交わしながら、まちづくりのテーマについてまとめています。このまとめた意見は、隠岐の島町で検討した後、役場が責任をもって方針を決定し、実行していく流れとなっています。

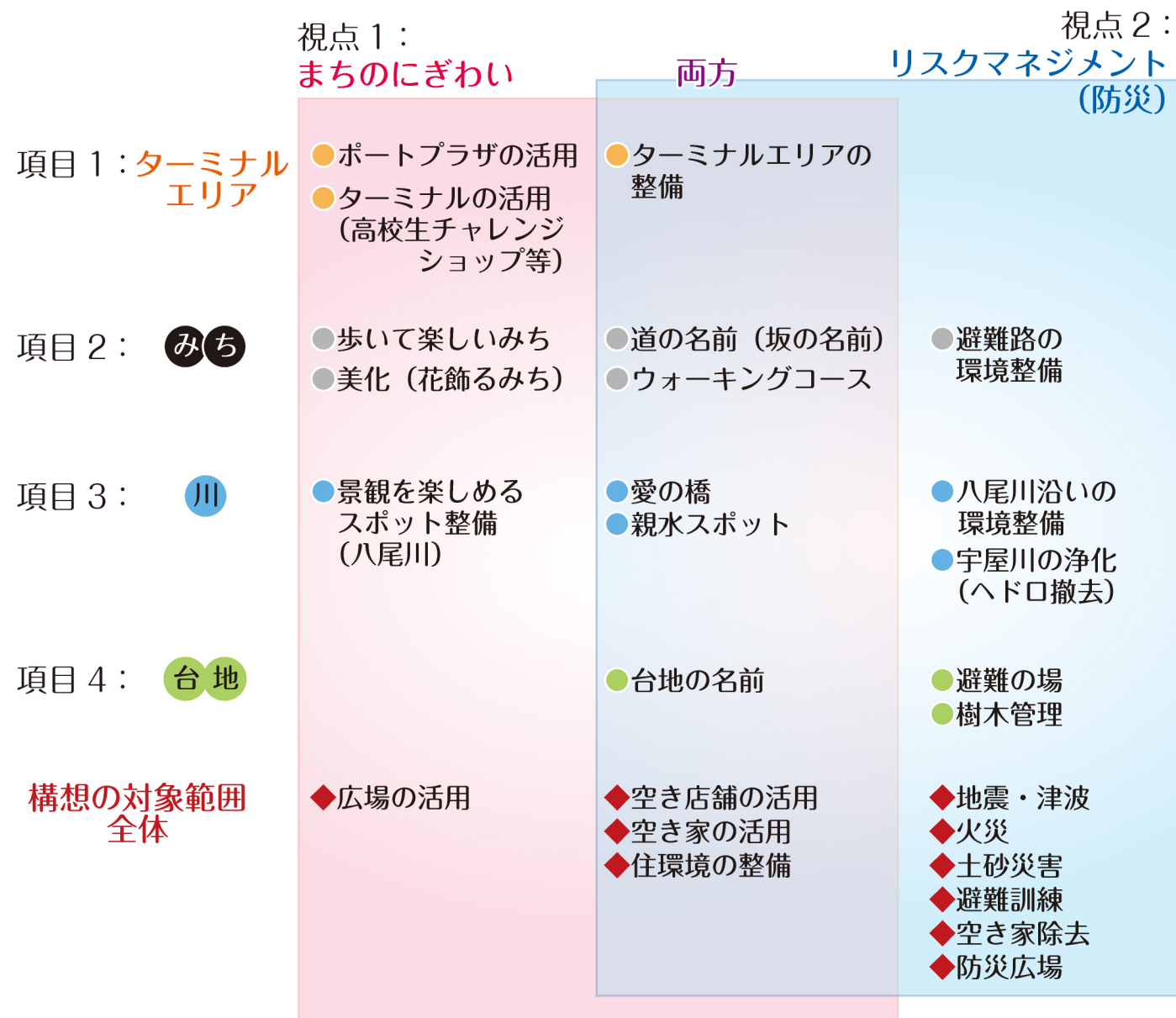
また、「まちづくり談義」には西郷小の児童による話し合いや、高校生との活動、地域の情報を提供し、さまざまな世代とまちづくりの共有を図っています。

談義の結果は「町の広報誌」や「談義ニュース」などで発信しています。



前年度に引き続き「まちづくり談義」を開催し、まちづくり構想を実現させるための具体的施策を位置づける「まちづくり計画」策定に向けた話し合いを行うと同時に、できることから事業を実施していきます。また、各事業の方針を検討していく際には、隠岐の島町が策定する各種計画と整合を図ります。さらに、島根県や関係機関との調整が必要な事業については、事前に相談・調整を図り、実現性を重視した進め方を行っています。

西郷 玄関口のまちづくり構想の骨格



構想の骨格

ターミナルエリアからはじまる「みち」「川」「台地」
そこのにぎわいを そして防災を

構想の骨格となるのは「まちのにぎわい」と「リスクマネジメント(防災)」、その両方といった視点で整理した4つの項目です。4つの項目とは「ターミナルエリア」「みち」「川」「台地」に関するものと、これら4項目を含む対象範囲全体に関するものです。

これまでの談義から、ターミナルの魅力を高めるためにはまちとつながることが重要であるとの認識で一致しています。台地をランドマーク(地域の目印)として、海から、ターミナルエリア、まちへとつながっていくことで、中町・西町・港町・東町のひとびとが連携し、世代とのつながりの中でまちづくりへ意識が向かい、各事業の実現を目指すこととします。